

建物耐震診断等説明資料

一般財団法人 建築研究協会
建物耐震性能評価委員会

I. 共通事項

1. 評価区分

必要な記載項目は評価の区分により次の通りです。

区分	評価内容	項目番号
A	耐震診断	1 ～ 4
B	耐震補強計画	1 ～ 5
C	総合評価 (A+B)	1 ～ 5

2. 評価建物の構造種別 (RC造、S造の別) により、要否欄*印の付した記載事項を採録して下さい。

3. II. の説明資料の細目欄は網羅されていることを原則とします。

4. 耐震診断等業務の経過で既に報告書等として完成しているものがある場合は、これを本説明資料に代えることができます。

II. 耐震診断等説明資料及び記載事項

項目	細目	記載、掲載事項	要 否		備 考
			RC	S	
1. 概 要					
建物概要	名 称 他	建物名称—名称と区分用途、所在地	*	*	設備台帳に基づいて記載する
		設 置 者—団体名称	*	*	//
		竣工年月—設計年月、竣工年月	*	*	//
	規模構造	階数面積—階数、建築面積、延べ面積	*	*	
		診断対象面積	*	*	
		構 造—構造種別、構造形式	*	*	
	保存図書	保存図書一覧表	*	*	意匠図・構造図
					構造計算書・地質調査資料
	建物来歴	増築改造—増築予定、増築改造歴	*	*	年度、規模などの概要
		災 害—震害、風害、火災の有無	*	*	//
		用途変更—原設計用途、現状用途	*	*	//
	構造の特徴		*	*	平面形状、異形整形、複合構造など特別な構造、荷重条件
診断の方針	準拠規準	診断を行う準拠規準類の図書名	*	*	
	使用ソフト等	プログラム名、プログラム作成者	*	*	
	実施者名	所属団体名、氏名、資格	*	*	資格は建築士および受講資格
	実施年月	着手年月、完了年月	*	*	
	診断回数	2次、3次診断、保有耐力	*	*	
	診断モデル	診断のモデル化、ゾーニングなど		*	耐震要素の特別な扱い方 (有開口、袖壁など)、建物を分割 (ZONING) して診断する場合などについて記載
主な仮定	建物重量		*	*	精算、概算、図書記載値の区別
	材料強度	コンクリート—採用診断基準強度と根拠	*	*	根拠は原設計基準強度か試験 (コア圧縮、シュミットハンマー、
		鋼 材— //	(*)	*	引張) 結果かを明記
	そ の 他	(適宜)	(*)	(*)	特別な荷重の採り方などある場合
2. 建物図面他					診断に必要な建物の図面と資料
施設台帳		総括表、棟別面積表、配置図、平面図	*	*	施設台帳のコピー
位置図		所在地の位置図	*	*	活断層地図又は地質図を使用するのが望ましい
建物図面	平 面 図	各階平面図	*	*	図面は設計図のコピーでよい
	伏 図	各階伏図、基礎伏図	*	*	//
	軸 組 図	各通軸組図	*	*	//
	部材 リスト	柱、壁、梁の各断面リスト、基礎リスト	*	*	//

項目	細目	記載、掲載事項	要否		備考
			RC	S	
柱状図		地質調査資料のうち柱状図	(*)	(*)	現存資料がある場合
3. 現地調査					
建物現況	概況	内観・外観などの概況	*	*	
	図面照合	変更相違箇所	*	*	2. 項の平面図、軸組図などに明記
		接合部、柱脚、溶接方法など		*	現況写真又は図面を使用する
損傷劣化調査	亀裂	方法、調査結果	*		現地調査図として表記。または野帳
	中性化深さ	位置、実測結果	*		位置は現地調査図に明記
	腐食錆化	位置、調査結果		*	現地調査図として表記
変形沈下調査	不同沈下測定	建物不同沈下調査結果	*	*	//
	撓みと傾斜	梁の撓み、柱の傾斜など実測結果		*	//
材料試験	コンクリート	コア圧縮試験結果、位置	*		コア圧縮試験は公的機関の試験結果
		シュミットハンマー試験結果、位置	*		
	鋼材	鋼材の引張試験結果	(*)	(*)	引張試験は公的機関の試験結果
その他		(適宜)	(*)	(*)	試掘、地質調査を行った場合など
現地調査図		伏図、軸組図	*	*	上記「損傷劣化調査」以下の項目を表記
写真	全景	全景2枚	*	*	敷地周辺の地形状況が分かるもの
	現況	内外観の主要箇所	*	*	
	調査状況	調査、試験の状況	*	*	各種調査、試験の状況
4. 耐震診断					
準備計算	固定積載荷重		*	*	
	地震時重量		*	*	電算機使用の場合、出力書をコピー
	柱軸力一覧		*	*	//
形状指標		SD表またはFes計算書	*	*	//
経年指標		T表または減厚考慮箇所一覧	*	*	減厚考慮はS造の場合
診断結果	2種構造要素	第2種構造要素の判定計算書	*		
	C-F関係グラフ	各階、各方向	*		出力書のコピーでよい。
	部材破壊モード	各階、各方向部材破壊モード伏図	*		出力書のコピーでもよい。
	診断結果表		*		出力書のコピーでよい。採用値を明記
(S造の場合)	要素耐力	計算書、耐力表		*	部材、接合部、柱脚、基礎転倒限界
	保有耐力	計算書		*	
	各指標値	F値、IS値、q値の計算書		*	
その他資料		屋根構面耐力検討書	(*)	*	屋根構面の検討は屋根がS造の場合
結果の所見		X方向、Y方向	*	*	
5. 耐震補強計画					
補強方針	現況の分析	損傷の原因、敷地条件	*	*	建物の変状と損傷の原因、敷地の特殊条件(崖地、盛土、軟弱地盤など)
	目標耐震性能		*	*	補強建物目標耐震性能
	補強方法	損傷部の対策、補強、改善、減量	*	*	補強、スリットなど改善、減量について
補強案	伏図		*	*	補強などの位置と方法を図示する
	軸組図		*	*	//
診断結果			*	*	4. の準備計算、診断結果の項に準ずる
その他資料		地耐力検討、屋根構面耐力検討書	*	*	4. のその他資料の項に準ずる
結果の所見		X方向、Y方向	*	*	

RC造－（財）日本建築防災協会発行「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準・改修設計指針 同解説（2009年改訂版）」

S造－（社）文教施設協会発行「屋内運動場等の耐震性能診断基準」（平成18年版）

S造－（財）日本建築防災協会発行「耐震改修促進法のための既存鉄骨造建築物の耐震診断および耐震改修指針・同解説（2011年改訂版）」

その他